

九易いを挙げて法華經を流通せんと諸の大菩薩を諫かん曉せうせしむ。金色世界の文殊師利・兜史多宮の弥勒菩薩・宝淨世界の智積菩薩・補陀落山の觀世音菩薩等、頭陀第一の大迦葉・智慧第一の舍利弗等、三千世界を統領する無量の梵天・須弥山頂に居住する無辺の帝釈・一四天下を照耀せる阿僧祇の日月・十方の仏法を護持せる恒沙の四天王・大地微塵の諸の竜王等、我にも我にも此の經を付属せられよと競い望みしかども、世尊都て之を許したまわず。

爾の時に下方の大地より未見今見の四大菩薩を召し出す。所謂上行菩薩・無辺行菩薩・淨行菩薩・安立行菩薩なり。此の大菩薩各々六万恒河沙の眷属を具足す。形貌威儀言を以て宣べ難く、心を以て量るべからず。初成道の法慧・功德林・金剛幢・金剛藏等の四菩薩が、各々十恒河沙の眷属を具足して仏会を莊嚴せしも、大集經の欲・色二界の中間の大宝坊に於て来臨せし十方の諸大菩薩も、乃至大日經の八葉の中の四大菩薩も、金剛頂經の三十七尊の中の十六大菩薩等も、此の四大菩薩に比校すれば猶帝釈と猿猴と華山と妙高との如し。弥勒菩薩、衆の疑うたがを挙げて云く、「乃し一人をも識らず」等云云。天台師云く、「寂場より已降、今座より已往、十方の居士、来会絶えず。限るべからずと雖も我補処の智力を以て悉く見、悉く知る。而れども此の衆に於ては一人をも識らず」等云云。妙樂云く、「今見るに皆識らざる所以は、乃至、智人は起を知り、蛇は自ら蛇を識る」等云云。天台又云く、「雨の猛きを見て竜の大きなを知り、華の盛りなるを見て池の深きを知る」云云。例せば漢王の四将の長良・樊噲・陳平・周勃の四人を、商山の四皓季里木・角里先生・園公・夏黄公等の四賢に比するが如し。天地雲泥なり。四皓が